

色々なことがありました！

これまでのイベント

「三次地区の文化・観光まちづくりを進める会」結成！



多くの方が三次地区を訪れ、楽しく交流できるまちをめざして「三次地区文化・観光まちづくりを進める会」が結成されました。企画から実行まで参画したい人を募集し、市民46人の申込がありました。第1回会議では、三次地区を盛り上げるためのプロジェクトについて意見を出し合いました。提案されたアイデアの中から、取組を決め、実際に活動していきます。

「三次市妖怪を生かした文化・観光推進市民委員会」を設置しました

この委員会は、「稲生物怪録」や妖怪博物館を生かした文化・観光の振興について、可能性や方向性等を議論しながら、「夢」や「将来像」等を共有し、その実現に向けた取組等についての提言をいただくことを目的として設置されました。市内の経済界、文化・観光関係団体、三次地区の団体など、各種団体から28人の委員に就任していただきました。現在2回の委員会を開催し、今後は出された意見を分野ごとに整理し、分科会形式で議論を深めていきます。



連続講座 第3弾

7月15日(土)に、三次市民ホールきりりにおいて、安田女子大学名誉教授 杉本好伸さんをお招きし、「稲生物怪録入門(概論)」としてご講演いただきました。



時間が足りない講演に熱が入る杉本先生!!

今回の講演では、そもそも《稲生物怪録》とはどのような作品なのかを、初期「柏本」作品の内容を紹介しながら、わかりやすく、面白くお話していただきました。研究者ならではの視点で、《稲生物怪録》の整理から新しくわかったことや、初期柏本の構成や稲生平太郎と一緒に登場する人物たちにも注目して解説していただき、《稲生物怪録》について、知っていたようではなかったと多くの方が知識を深められていました。先生からは《魔王》の特性についてだけでも話し始めたら6時間(!?)はかかるということで、次回の講座へと期待が広がる講演会でした。



妖怪の世界・魅力に
ふれてみませんか？

これからのイベント

みよしものけものがたりⅢ

日時：11月26日(日) 13時～
会場：三次市民ホールきりり
内容：妖怪トーク、神楽「稲生平太郎」



湯本 豪一さん



はるな愛さん



佐々木 裕一さん



宇河 弘樹さん

妖怪研究家の湯本豪一さん、三次市在住の作家、佐々木裕一さん、漫画家の宇河弘樹さん、そして平成29年春にテレビ番組で三次市を訪れた、タレントのはるな愛さんをお迎えし、妖怪トークを繰り広げます！入場料は無料です。詳細は今後広報紙等でお知らせします。

編集後記



夏は各地で妖怪に関する企画展やイベントが行われ、三次市でも稲生物怪録に関連した講演会やお祭り、落語などが行われ、多くの方たちと一体となって盛り上がるのが出来ました。江戸時代も現代もこうして大衆の中に妖怪文化が根付いていったらなるとしみじみ感じています。最近の博物館の動向として、膨大なコレクションの資料整理が始まったばかりというところですが、驚いたことに国内外から湯本コレクションへの問い合わせが来ています。遠くはアメリカ、スペインからも！日本妖怪博物館として誇らしい気持ちを隠さずにはいますが、妖怪の資料を通して多くの方が日本文化に興味を持っていただけたら嬉しいと思っています。(学芸員：伏見由希)

【問い合わせ】三次地区拠点整備事業プロジェクトチーム
事務局 三次市政策部特命担当 TEL: 0824-62-6408 FAX: 0824-62-6137

～妖怪を生かした文化・観光まちづくりをめざして～

ものけだより

vol.2 平成29年9月

みよしものけものがたりⅡ開催



8月26日(土)、三次商工会議所で「稲生物怪録」や妖怪に親しんでいただくためのイベント「みよしものけものがたりⅡ」を開催しました。三次市を中心に活動中の落語家、浮沼亭冷奴さんと布野小学校の児童が、「稲生物怪録」を題材にした創作落語を披露。その後、四代目旭堂南陵さんによる講談「稲生平太郎」に、市民をはじめ県外、海外から約60人のお客様が聴き入り、イベント終了後には「三次物怪まつり」も開催され、妖怪づくしの一日をお楽しみいただきました。



地域のとりくみ

妖怪プロジェクト 三次



妖怪で町おこしをしようと、1999年に有志10人程度で結成した団体。これまでに「世界妖怪会議」の誘致や、「三次物怪まつり」を開催。「多くの人との交流を楽しんで続けている。」と代表の吉川光彰さん。将来は、妖怪とつながりの深い境港市、松江市、徳島県三好市と連携した「妖怪ロード」を作り、盛り上げていきたいとのこと。

▶プロジェクト代表の吉川さん、パレードに欠かせない「平太郎」のかぶりものと一緒に。



▲三次きんさい祭のパレードに妖怪仮装で参加。徳島県三好市からも「妖怪」が応援にかけつけてくれた。

地域で妖怪をアートする

鬼というように全部で100体あり、様々な妖怪たちが細部まで作成されていて圧巻の作品です！一体一体可愛らしく表現されていて、知っている妖怪をみんなで探してみるのも面白いですね♪



総合研究授業において、生徒たちは三次町でフィールドワークを行い、観光客が休憩する所がないこと、空家が多いことに気づき、自分たちで空家を活用してお休み処「青陵処」を開設。お茶を出したり、遊び場を提供したり、自分たちで運営してきました。



▲キャラクターを製作した安成さん、田中さん、吉田さん(左から)

市民委員会の委員として参加している芸芸部2年の伊藤さんと長原さん(左から)。稲生物怪録のライトノベル化、電子小説の配信、ゲームやアプリの開発等、若者の視点で思いを語ってくれました。

三次青陵高校



美術部では、三次独自の文化をキャラクターに、「稲生物怪録」のキャラクターを作りました。今後は商品化に向けたデザインの企画をしたり、「稲生物怪録」を分かりやすく現代語訳し、絵本にして全校に配るなど、いろいろなアイデアで「稲生物怪録」の知名度アップを計画。

3人が製作したキャラクター。一頭身にして、明るい色にすることでかわいらしさを演出。

三次市に寄贈された湯本コレクションは、約3,000点からなり、日本最大の妖怪コレクションと言われ、各分野から高い評価を受けています。今回はそのコレクターであり、妖怪研究者でもある、湯本豪一さんに、妖怪資料や三次市への思いをお聞きしました。

私が初めて三次を訪れたのは今から25年以上前のことです。そのころ勤務していた博物館で妖怪の展覧会を企画し、各地の妖怪資料を調査するなかでの訪問でしたが、当日は他所での調査に思いのほか時間がかかり、三次駅に到着したときにはすでに夜。灯りの点いている旅館を見つけ、尋ねると一室だけ空いており何とか泊まれたというほろ苦いファーストコンタクトでした。当時、私はすでに妖怪資料の収集をしていましたが、三次を訪れたのをきっかけに稲生物怪録に関する資料もそれまで以上に注意して収集するようになりました。それらが時を経て三次市に収められることとなり嬉しい限りです。寄贈させていただいたコレクションは絵巻、錦絵といったものから着物、根付、絵馬、おもちゃ等々、多様性に富むのが特徴で、妖怪文化の広がりを知ることのできる資料群です。新しく移住してきた妖怪たちを昔から三次に伝わる妖怪たち同様に可愛がっていただけることを心から願っています。



【湯本豪一さんの経歴】

1950年東京都墨田区生まれ、1977年法政大学大学院（日本史学）修士課程修了。川崎市市民ミュージアム学芸員、学芸室長を経て、妖怪研究者へ。
現在妖怪研究・収集を行うかたわら大学院や大学で妖怪について、また、法政大学で日本文化について教鞭をとる。妖怪に関する本を含め多数の著書を発表。

【著書】『日本の幻獣図説』、『今昔妖怪大鑑-湯本豪一コレクション-』**New!!**
『かわいい妖怪画』、『古今妖怪集-湯本豪一コレクション-』など。



(仮称) 湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）の建設を平成31年春のオープンをめざして進めます。市民委員会をはじめ、市民の皆さんのご協力をいただきながら、庶民の文化であり、日本のユニークな文化である妖怪文化を俯瞰するとともに、国内外から多くのお客様を迎えることができる博物館をめざして、準備を進めています。



三次に湯本コレクション到着!!

8月24日(木)、東京から作木山村開発センター内の収蔵室に、約3,000点の妖怪資料である湯本コレクションが到着しました！
これから博物館オープンに向けて、本格的な資料の整理が始まります。湯本豪一さんとの連携を図りながら調査・整理を進め、新しい発見や貴重な資料を皆さんにご披露する機会を計画しています。



平成31年
春の開館を
めざして

約3,000点の中から
こんな資料あります！
妖怪文化の流れが
これでわかる!!

江戸時代

肉筆画で躍動する
妖怪たちの姿を描く
・絵巻物

木版印刷の普及で
大衆は妖怪ブームへ
・錦絵（浮世絵）、版本

生活用品にも
妖怪デザインは登場
・衣類、装飾品、工芸品

妖怪玩具、娯楽は
大人も子供も夢中に
・おもちゃ、ポスター、シール、双六など

現代へ

これらが
三次で
みられる!



ひゃっき やぎょう えまき
「百鬼夜行絵巻」 江戸時代（部分）

室町時代に始まり、特に江戸時代には数多く描かれた、妖怪が主役の代表的な絵巻物。湯本コレクションには約20点も関連資料が含まれる！

「何の道具かわかる?」



みなものよみみつこうやかた つちくもようかいをなすのず
「源頼光公館土蜘蛛作妖怪図」 江戸時代

歌川国芳の大判錦絵3枚続、土蜘蛛と頼光、四天王たちの姿は当時の幕府を風刺したものとされ、庶民たちに大人気となった。

土蜘蛛
あらわる!!



きゅうび きつねざし こぼんてん
「九尾の狐図刺子半纏」
明治時代



ば あんどん
「からくりお化け行灯」
明治時代以降

「小泉八雲も愛好した!!」



ようかいえい が
「妖怪映画ポスター」
昭和時代



つくも かみ えまき
「付喪神絵巻」 江戸時代（部分）

長年使用され捨てられた道具たちが妖怪になって人間に復讐しようとするが…。どこかユーモラスな姿で描かれた妖怪たちが魅力!



かいぶつ がほん
「怪物画本」 明治時代

鳥山石燕の『画図百鬼夜行』に描かれた妖怪を木版多色刷りの色彩鮮やかな本。中には、人気がある「猫また」の姿も!



にんぎょ ねつけ
「人魚根付」
明治時代以降



おに ずつば
「鬼図鏝」
江戸時代以降



すごろく
「おばけ双六」
明治時代以降



ひか ば
「光るお化けシール」
昭和時代

「おばけだぞ〜!!」

「はろり…」

「にゃ〜ん」